

# 肉用種雄牛の産肉能力検定 (現場後代検定法)

塚本永和・鈴木 肇・合原義人<sup>\*</sup>・関 正博

## 要 約

直接検定合格の県内産候補種雄牛について、遺伝的産肉能力を把握するため、和牛種雄牛産肉能力検定法（現場後代検定法）に基づき現場後代検定を実施した。

なお、現場後代検定は間接検定に比べて出荷月齢が長期化するため、今年度は検定終了牛はなかった。

キーワード：肉用牛，和牛，広域後代検定，現場後代検定，種雄牛，種牛

## 緒 言

茨城県肉用牛広域後代検定推進事業実施要領に基づき、繁殖雌牛の能力把握・計画交配・直接検定・現場後代検定等を実施し、優良種雄牛の作出並びに優良雌牛群を整備して、その効率的利用により肉用牛群の育種改良を推進する。

現場後代検定については、直接検定から選抜された県内産候補種雄牛の中から、遺伝的に産肉能力の優れた個体を選抜する重要な基礎資料とするため、(社)全国和牛登録協会の規定に基づき、その産子を肥育し、増体量・枝肉量・肉質等を調査する。

## 材料及び方法

### 1. 検定種雄牛

直接検定で選抜された県内産候補種雄牛

11年度開始 2頭

「安豊福」「慶喜」

12年度開始 3頭

「安福姫」「北福17」「北国栄」

### 2. 調査牛頭数

1種雄牛当たり概ね18頭（雄去勢・雌）で、  
1場当たり6頭。

### 3. 肥育場数 3場

茨城県畜産センター肉用牛研究所

茨城県経済農業協同組合連合会傘下農場

茨城県畜産農業協同組合連合会傘下農場

### 4. 飼料給与及び飼養管理

各肥育場の慣行による。

なお、現場においては、

濃厚飼料については、市販のものを使用した。  
成分は表-1のとおり。

粗飼料については、乾草（チモシー）は導入後3ヶ月間不断給餌し、それ以降は給与しなかった。

稲わらは、導入後4ヶ月間は濃厚飼料と混合給与、それ以降は濃厚飼料と分離給与した。

1牛房に雄去勢と雌を混飼した。敷料はオガクズを使用し、定期的に交換した。

なお、群飼いによる事故防止のため、肥育開始前に除角を施した。

表-1 現場後代検定用配合飼料の配合割合と成分

(重量比 単位：%)

穀類	そうこ う類	植物性 油かす類	その他	DCP	TDN
50.0	43.5	5.5	1.0	10.5 以上	72.0 以上

### 5. 導入、出荷時期

概ね8ヶ月齢で導入し、雄去勢は29ヶ月齢未満、雌は32ヶ月齢未満で出荷。

※現 茨城県農業総合センター土浦地域農業改良普及センター

### 結果及び考察

平成12年度に現場後代検定が終了した候補種雄牛はいなかった。これは平成11年度に間接検定から現場後代検定に移行したことに伴い、出荷月齢上限が延びたためである。